



(1) 国際文化交流学部 3つの学科

日本文学・民俗・歴史・日本語・日本文学、芸術文化・アートマネジメント、現代文化の4つのフィールドから総合的に日本文化を理解し、その伝統と特質について世界に発信する能力を培う。

国際コミュニケーション学科では、国際関係、コミュニケーション、比較文化・地域研究という3つの柱を軸とし、国際社会のあるべき姿や、異文化理解、いかに相互関係を構築するかなどについて学ぶ。

英語コミュニケーション学科では、2年次に全員が6カ月間の海外研修を行うなど、少人数制で高度な英語コミュニケーション力を養うほか、国際社会、国際関係などについて学ぶ。

(2) 海外同時授業

2012年9月にスタートしたプログラムで、日本にいながらにして海外で同時に行われている授業を受講できる。環太平洋地域の社会経済や国際関係を学際的に探求することが目的。リアルタイムで質問したり、学生同士で討論を行ったりと、学生たちは英語で活発に参加している。2023年度からは韓国・誠信女子大学との同時授業開始。

(3) 伝統文化演習科目群

日本の伝統文化について、実技と知識の両面から理解を深めるために用意された共通科目で、全学科の学生が履修可能。著名な講師陣から講義・実技指導を受け、文化的背景から歴史に至るまでの知識も身につけることができる。

(4) f-Campus (5大学間単位互換制度)

学習院女子大学、学習院大学、早稲田大学、立教大学、日本女子大学の5大学が2001年度からスタートさせた、学部レベルでの本格的な単位互換制度。各大学が提供する科目は併せて2000科目以上を数える。

●2023年度開始 新カリキュラムの詳細はこちら

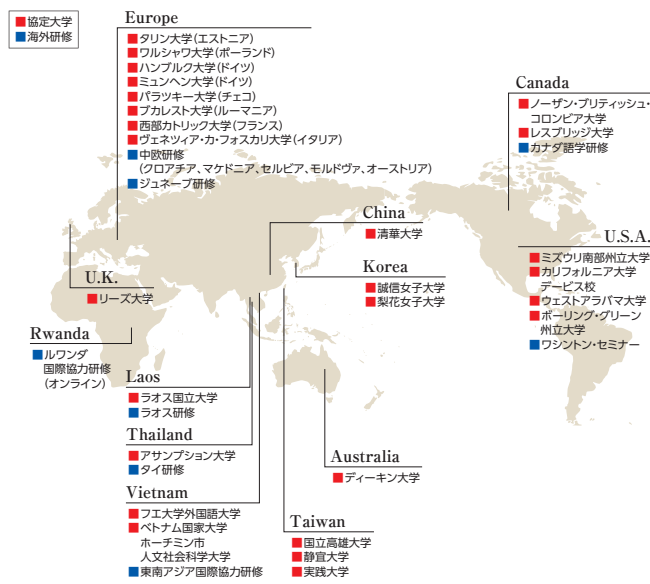


https://gwc-gakushuin.jp/next_stage/

学習院女子大学では2023年度から「データサイエンス教育プログラム」の新設、「国際的・学際的な学びの強化」「探求的

実践的な学びの強化」を軸としたカリキュラムの刷新を計画し、準備を進めています(設置構想中であり、今後、内容が変更になる可能性があります)。

学習院女子大学から世界へ～グローバルネットワーク



「ジェンダー・スタディーズ」、現在の世界・日本を読み解く「現代時事分析」、多様な視点から日本を深堀りする「日本研究のトピックス」があります。

これらは一例でしかありません。一つのテーマについて学際的・複眼的な授業ができるのは、小規模な大学ながらも、世界とつながり、実務・研究両面の多彩な専門分野を持つ

つ教員が、学生の学びのために協力できる体制があるからです。学生たちは、これらの学びを通して、異文化理解や課題解決のための視点を養うことができます。

また、ユニークな授業科目群として伝統文化演習科目群^③が挙げられます。茶道や華道、書道、香道、有職故実などの科目があります。比較文化論、日本思想史、歴史学、そして象徴論、その意匠や美意識の形成過程などを扱う様々な科目と学びが繋がることで、日本の伝統文化を深く理解できるようになります。

学習院女子大学の学びは本学の中に留まりません。近隣5大学の単位互換制度「f-Campus^④」を利用し、他大学の正規授業も履修できます。

第三の教育の特徴は、「小規模校ならではのきめ細やかで丁寧な指導」です。1〜2年生の基礎演習、3〜4年生の専門演習においても、各学年10名程度というお互いが分かる

集団の中で、探求的で協働的な学びを深めていきます。学生と教職員との距離も近く、学生生活を満喫できる絶好の環境が整っています。

この一人ひとりを大切にしたい丁寧な指導は、教職・図書館司書・学芸員といった資格課程の授業やキャリア就職支援などについても同様です。近年、大学の「就職力」がより重視されるようになっていますが、学習院女子大学では学生一人ひとりに合わせたキャリア育成を徹底してサポートし、高水準の就職力を誇っています。1年次から3年次の各学年に応じたプログラムに加え、学生の状況に応じて随時セミナーを企画・実施。個別面談や進路決定者によるキャリアアドバイザー制度などサポート体制も充実しています。

2024年3月卒業生の就職率は98・6%に達し、著名400社への実就職率も全国女子大学1位(卒業生500人以下の大学、大学通信調べ)となっています。

3つの柱からなる新しいカリキュラム制度

学習院女子大学の将来計画について



おおもとしゆき 大桃敏行学長
1977年東北大学教育学部卒業。83年東北大学大学院博士後期課程単位取得退学。専門は教育行政学、教育制度論。東北大学教授、東京大学大学院教育学研究科長・教育学部部長などを経て、2021年より現職。

「グローバル化の進展により、人やモノ、情報などが国境を越えて地球規模に広まるようになった今、地球規模で物事を考察することが必要です。また、技術革新や人口動態の変化、自然環境の変化などで先が見えにくい時代を生き抜いていく力も求められています」と、日本の教育を取り巻く環境の変化を語ります。こうした時代に応じた学習院女子

大学の教育の第二の特徴は、「多様性に開かれた学び」です。小規模リベラルアーツ型大学として、人文社会科学や情報など幅広い

分野を学び、深い教養に根ざした文化への造詣を培います。多文化学際科目群の授業では、既存の枠組みにとられず教員自身が様々な工夫を凝らした意欲的な取り組みを実施しています。2024年度は8つの科目を開講しました。ほとんどの授業が、特定のトピックスについて複数の教員が、それぞれの専門分野の視点から講義するオムニバス形式で実施されます。たとえば「英語で学ぶ現代日本」では、政治・外交・経済からマンガや食文化などの幅広い分野について教員自身が作成した英語テキストを使用し、日本の全体像を英語で把握して、これにより外国の方に日本のことを概説できるようにする授業です。また、人口減少社会である日本の在り方について、課題設定にSDGsの視点を取り入れた学び「地域活性化とSDGs」という授業では、地域の多義性や、その活性化のための課題が持つ複層性を認識し、達成のためには分野横断的・統合的な視点が必要であることを学ぶことができます。

レスブリッジ大学との海外同時授業はインターネットを利用して、リアルタイムで学生同士が活発にディスカッションをするもので、学生にとって貴重な経験を提供しています。2023年度からはさらに韓国の誠信女子大学との海外同時授業を開始し、異文化体験の機会をさらに強化しています。その他にもジェンダー研究の多面性・多様性を扱う

学習院女子大学は1998(平成10)年に開学したリベラルアーツ型大学ですが、その歴史は1877(明治10)年に開設された学習院や、1885(明治18)年創設の華族女学校にまで遡ります。

開学当初から時代を先取りした「国際文化交流学部」を設置し、一貫して国際化を見据えた教育を実践。日本の伝統文化を含む多様な文化や異文化理解などの開講科目に加え、体験型の海外研修などにより、グローバルな人材を育成しています。

2023(令和5)年度からは「データサイエンス教育プログラムの新設」「国際的・学際的な学びの強化」「探求的で実践的な学びの深化」の3つの柱からなる、新たなカリキュラムを開始。予測困難な時代を生き抜く力を育てていくことを目指します。

学習院女子大学

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1 入試係 TEL 03-3203-7784 https://www.gwc.gakushuin.ac.jp/

データサイエンス×国際・学際×探求で 予測困難な時代を生き抜く力を持った グローバルに活躍できる人材を育成

グローバル人材を育成

学習院女子大学は、東京都新宿区にありながら、緑豊かなキャンパスを誇っています。開学当初からグローバル時代を先取りした「国際文化交流学部」を設置し、現在は日本文学・英語コミュニケーション・国際コミュニケーション・英語コミュニケーションを設けています。3学科を貫く共通の目的は「関連諸学問に対する高い識見を有するとともに、豊かな教養と地球規模の視野を持ち、文化の交流と相互理解を通じて国際社会に貢献できる人材の育成」です。

海外研修プログラムには、アメリカの首都ワシントンで各種の国際機関や文化機関、行政機関、歴史施設などを訪問し、第一線で活躍する専門家から直接指導を受ける「ワシントン・セミナー」や、カナダ・韓国での語学研修、中欧、ベトナム、タイ、ラオスなどでの国際協力研修があります。海外研修プログラムはすべて実践的かつ体験的で、先進国のみならず途上国でも実施していること、長期休業中に実施されるため学業と両立しやすいことなどの利点があります。

既存の授業にとられない学びを提供する多文化学際科目群